

椎名雄一郎 しいな ゆういちろう



東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業。  
同大学院音楽研究科修士課程修了。

第1回ダラス国際オルガンコンクール第2位。  
第12回ライブツィヒ・バッハ国際コンクール第3位。  
2002年NDR(北ドイツ放送局)音楽賞国際オルガンコンクール優勝。

ウィーン国立音楽大学に留学し、オルガンをM.ラドウスク、チェンバロを故G.マレーの各氏に師事し、満場一致の最優秀の成績で卒業。スイス、バーゼル・スコラカントルム音楽院に留学。オルガンとチェンバロをJ.C.ツェンダー、通奏低音をJ.A.ベッティヒャー、アンサンブルをA.ルーリーの各氏に師事。日本のほか、スイス・オルガン・フェスティバルをはじめ、ドイツ、オーストリアを中心に欧州各地で演奏会を行なう。

コジマ録音よりCD「バッハのオルガン解体新書」、「平和の祈り」、「メンデルスゾーンオルガン作品集」などをリリースし、レコード芸術特選盤に選ばれる。また春秋社より「パイプオルガン入門」を出版する。

現在、東北学院大学文学部教授、大学宗教主任、キリスト教文化研究所所長。

日本基督教団讃美歌委員会委員。

日本基督教団吉祥寺教会オルガニスト。

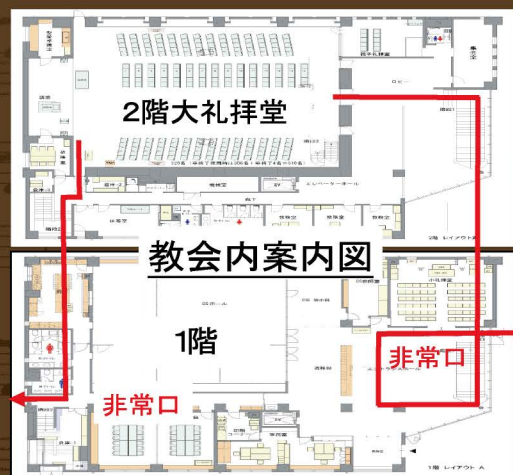
<https://www.yuichiro-shiina.com>

—— 富士見町教会のご紹介 ——

富士見町教会は1887(明治20)年、植村正久により創立されました。日本基督教団に属する、プロテスタントのキリスト教会です。

- 主任牧師 藤盛 勇紀
- 牧師 星野 江理香
- 牧師 小宮 一文

東京都千代田区富士見2-10-1  
TEL 03-3261-0633  
<http://www.fujimicyo-kyokai.org>



—— 集会のご案内 ——

- |                 |     |               |
|-----------------|-----|---------------|
| 主日礼拝            | 朝礼拝 | 午前10時20分～12時  |
|                 | 夕礼拝 | 午後6時～7時       |
| 昼礼拝             | 火曜日 | 午後0時30分～1時    |
| 教会学校            | 日曜日 | 午前9時～10時      |
| キリスト教入門講座「志道者会」 |     |               |
|                 | 水曜日 | 午後6時30分～7時30分 |
| 聖書研究・祈祷会        |     |               |
|                 | 木曜日 | 午後6時30分～7時30分 |

富士見町教会

# イースター・オルガン演奏会

演奏 椎名雄一郎

2024年 3月23日(土)

14:00 開演 (13:30 開場)

入場無料・自由献金

会場 富士見町教会 大礼拝堂

## プログラム

J.S. バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)	前奏曲 ホ短調 Präludium in e BWV 548/1
S. シャイト Samuel Scheidt (1587-1654)	〈日にして光なるキリスト〉 Christe, der du bist Tag und Licht SSWV 454a  〈主にして日なるキリストよ〉 Christe qui lux es et dies SSWV 151 I. Versus, à 4 Voc. II. Versus, Bicinium III. Versus, à 4 Voc. / Coral in Cantu IV. Versus, à 4 Voc. / Coral in Alto V. Versus, à 4 Voc. / Coral in Tenore VI. Versus, á 3 Voc. / Coral in Basso VII. Versus, Canon in subdiapason post minimam pedaliter. à 4. Voc.
J.S. バッハ Johann Sebastian Bach	〈われ心よりこがれ望む〉 Herzlich tut mich verlangen BWV 727
J. ブラームス Johannes Brahms (1833-1897)	《11のコラール前奏曲》より 第9. 10曲 〈われ心よりこがれ望む〉 Herzlich tut mich verlangen op.122-9, 10
J.S. バッハ Johann Sebastian Bach	フーガ ホ短調 Fuge in e BWV 548/2
休憩	
メッセージ	富士見町教会主任牧師 藤盛勇紀
J.S. バッハ Johann Sebastian Bach	〈キリストは死の縄目につながれたり〉 Christ lag in Todesbanden BWV 625
讃美歌 21-317 〈主はわが罪ゆえ〉	
H. シャイデマン H.Scheidemann (ca.1595-1663)	〈キリストは死の縄目につながれたり〉 Christ lag in Todesbanden WV 3 Versus 1: Pedaliter Versus 2: auf 2 clavier. Pedaliter Versus 3
J.S. バッハ Johann Sebastian Bach	前奏曲とフーガ ニ長調 Präludium und Fuge in D BWV 532a

## プログラム・ノート

本日はイースター・オルガン演奏会にお越しいただきありがとうございます。今年のイースターは3月31日ですが、主の受難と復活は一つの流れの中で語られるものであり、本日のプログラムはオルガン音楽を通して、私たちのために十字架に架かってくださり、復活された主を覚えたいと思い、構成しました。藤盛牧師のメッセージ前に受難節の音楽、後にイースターの音楽を配置しております。

前半冒頭と最後に演奏する《前奏曲とフーガ ホ短調》BWV 548は、1730年以降に作曲されたバッハ後期の作品です。調性のホ短調は、当時のオルガンではきれいに響かない調で、その響きは悲しみを表しているといわれています。またバッハの大作《マタイ受難曲》の冒頭もホ短調で書かれており、つまり苦難、受難を表す調としてホ短調は考えられていたのでしょうか。イタリアのリトルネッロと、対位法的技法が見事に調和された作品となっています。

S. シャイトはおそらくネーデルランドのJ.P. スヴェーリンクに学んだと考えられています。スヴェーリンクはアムステルダム・旧教会オルガニストを務め、多くのドイツ人オルガニストを育てました。バッハの音楽の源はスヴェーリンクにあるとも言われています。シャイトは3巻からなる『タブラトゥーラ・ノヴァ』を出版しました。本日演奏する〈主にして日なるキリストよ〉は四旬節のための音楽として『タブラトゥーラ・ノヴァ』第3巻に収められています。ここではコラール作品の演奏の様々な技法を示しています。〈日にして光なるキリスト〉と〈主にして日なるキリストよ〉は同じメロディーを持っています。ただ〈日にして光なるキリスト〉はドイツ語、〈主にして日なるキリストよ〉はラテン語による歌詞が付けられています。本日はまずこの旋律を〈日にして光なるキリスト〉で聴いていただき、その後〈主にして日なるキリストよ〉のコラール編曲をお聴きください。

〈われ心よりこがれ望む〉は現在でもよく歌われる受難節を代表するコラールです。古今のオルガニストはコラールを様々な編曲して演奏してきました。本日はバッハ、ブームスによる編曲を演奏します。同じコラールから多種多様な音楽が生まれていることが感じられるのではないのでしょうか。

メッセージ後はイースターの音楽を演奏します。三日後に復活したイエスをどのように音楽は表現しているのでしょうか。イースターの賛美歌として歌われる〈キリストは死の縄目につながれたり〉は日本語にも訳され、讃美歌21の317番〈主はわが罪ゆえ〉として歌われています。バッハをはじめとして多くの作曲家がこのコラールをテーマとした作品を作曲しています。H. シャイデマンは、1611～14年にスヴェーリンクに師事し、1629年(25年という説もある)ハンブルク・聖カタリーナ教会オルガニストに就任しました。彼のコラール作品はスヴェーリンクの伝統を受け継ぎ、さらに先輩シャイトの影響もみられます。〈キリストは死の縄目につながれたり〉は全3節からなり、第1節ペダルでコラール旋律、第2節では装飾されて上声部でコラール旋律、第3節もやはり上声部でコラール旋律が演奏されます。

演奏会最後はイエスの復活の喜びをJ.S. バッハの《前奏曲とフーガ ニ長調》BWV532aで表したいと思います。ニ長調は華やかな調性で、バッハのカンタータでもクリスマスやイースターで使用されている調性です。前奏曲はチェンバロのための《トッカータ ニ長調》BWV912と比較すると興味深い作品です。トッカータにはもちろん、チェンバロのための作品のため足鍵盤の指定はありません。一方BWV532の前奏曲は冒頭、足鍵盤でニ長調の音階を弾くように指示されています。バッハの自筆譜は残っていないため、バッハ自身が足鍵盤で弾くことを指定したかどうか確証はありませんが、残されている資料には、すべて足鍵盤で弾くように指示があります。おそらくバッハは冒頭の音階を足鍵盤で弾くように指示しているのでしょうか。前奏曲、フーガとも足鍵盤が活躍する作品で、バッハの作品中、最も足鍵盤の技巧的な作品といえることができます。

椎名雄一郎 記

### 〈オルガンのご案内〉

初設置：1999年12月 2013年 新会堂に移設  
設計・製作・組立：Werner Bosch Orgelbau GmbH  
整音・調律：Michael Bosch  
ディスプレイ：秋元道雄  
鍵盤：3段手鍵盤と足鍵盤 ストップ数：45

